

平成25年度 公益財団法人宇都宮市医療保健事業団事業報告

<事業概要>

平成25年度は公益財団法人の認定から2年目となり、初年度の経験を十分に活かしながら当初の事業計画に基づき、初期救急医療による安全・安心な医療環境の提供、疾病の早期発見を図るための各種健康診断の実施など、地域住民の健康維持・増進に向け事業を推進してまいりました。また併せて、准看護師・歯科衛生士の養成など、医療従事者の育成に努めるなど各部門とも積極的に事業を推進し、地域住民の公益の増進に貢献しました。

夜間休日救急診療所部門においては、急病患者の応急処置を主たる目的とし、宇都宮市の指定管理者として宇都宮市医師会、宇都宮市歯科医師会及び宇都宮市薬剤師会の協力のもとに管理運営をしており、年末年始やインフルエンザ流行期等については患者の状況に応じ、一次救急医療体制を適切に確保するとともに、併せて「救急医療の適正受診」等についての啓発活動を積極的に実施したところです。平成25年度の患者総数については、前年度比24人の減で延べ39,053人となり、ほぼ前年度と同様の実績となりました。

健診センター部門においては、事業所健診や子ども健診において受診者数は前年度より減少しましたが、巡回方式の住民健診である子宮がん巡回健診等においては増加しており、平成25年度の健康診断受診者総数については、前年度比0.4%減の延べ102,531件となりました。事業開始2年目となった情報収集・情報発信事業では、メタボリックシンドローム判定等の健診データを基に作成した、地域住民の今後の健康づくりに関する資料を宇都宮市に提供したほか、横断幕やラジオ等様々な広告媒体を活用して各種健診の受診率向上に向けた普及啓発活動や、事業所健診の検査結果等を基に、受診者が今後の生活改善に役立つ健康教室等の健康支援活動を実施するなど、積極的に健康診断後のフォローに努めました。また、リスクマネジメントの推進や個人情報保護対策の徹底を図り、事故防止の意識を高めるとともに個人情報の適正管理に努めました。

准看護高等専修学校及び歯科衛生士専門学校部門においては、地域保健医療に貢献が期待される有能な人材を育成するため、教育環境や教育内容などの充実を図るとともに、新年度の入学生を確保するため、進学相談会への参加や学校見学会等を実施しました。また、資格取得の支援及び就業支援に力を入れ、地域医療の担い手として准看護師及び歯科衛生士を地域の医療機関等へ輩出したところです。

最後になりますが、平成25年度は、当事業団開設30周年の節目の年にあたり、国立長寿医療研究センター総長大島伸一氏による記念講演会の開催や記念誌の発行など、記念事業を行いました。

1 夜間休日救急診療所部門

当診療所は、急病患者の応急処置を主たる目的として、夜間や休日等の一次救急医療を確保するため、当事業団が宇都宮市の指定管理者として宇都宮市医師会、宇都宮市歯科医師会、及び宇都宮市薬剤師会の協力のもとに管理運営しており、毎夜間と日曜祝日の昼間に診療を実施し、特に患者が増加する5月の連休、旧盆、年末年始の繁忙期やインフルエンザの流行期等については、患者の状況に合わせてスタッフを配置した。

平成25年度の診療所の開設状況については、昼間診療を74日、夜間診療（準夜・深夜）を365日実施し、総患者数は前年度比24人減の、延べ39,053人で、ほぼ前年度と同様の実績となった。

(1) 実施状況

ア 診療日、診療時間、開設日数

区分	診療科	診療日	診療時間	開設日数
昼間	医科 歯科	日曜,祝日,国民の休日	午前9時～午後5時	74日
		旧盆(8/13,14,15)		
		年末年始(12/30～1/3)		
夜間	医科	毎日	午後7時30分～翌朝午前7時	365日
	歯科	毎日	午後7時30分～午前0時	

イ スタッフ動員数

(単位：人)

区分	医師	歯科 医師	薬剤師	看護師	衛生士	事務員	合計	前年度比較	
								動員数	増減
昼間	242	89	175	342	104	316	1,268	1,273	△5
準夜	823	382	464	1,221	399	878	4,167	4,165	2
深夜	730	—	365	730	—	365	2,190	2,190	0
合計	1,795	471	1,004	2,293	503	1,559	7,625	7,628	△3
前年度	1,794	471	998	2,299	503	1,563	7,628	/	
増減	1	0	6	△6	0	△4	△3		

ウ 医科患者利用状況

医科における患者数については、年度当初は減少傾向であったが、1月からインフルエンザ患者が増加しはじめ、最終的には前年度比 62 人減の 35,476 人となり、ほぼ前年度と同様の実績となった。

平成25年度のインフルエンザについては、患者数2,806人、うちA型が1,439人(51.3%)、B型が1,226人(43.7%)、型別不詳が141人(5.0%)であった。例年B型は遅い時期に見られることが多いが、今回は早い時期からB型患者が混在した。

①医科月別受診者数

(単位：人)

区分	25年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	26年	1月	2月	3月	合計	前年度比較		
																日数	患者数	増減
																1日平均	1日平均	1日平均
昼間	日数	5	7	5	5	7	7	5	6	8	8	5	6	74	74	0		
	患者数	651	1,243	456	647	783	801	527	845	1,693	1,876	1,230	1,265	12,017	11,882	135		
	1日平均	130.2	177.6	91.2	129.4	111.9	114.4	105.4	140.8	211.6	234.5	246.0	210.8	162.4	160.6	1.8		
夜間	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365	0		
	患者数	1,209	1,445	1,124	1,313	1,428	1,142	1,021	1,190	1,775	1,959	1,629	1,739	16,974	17,098	△ 124		
	1日平均	40.3	46.6	37.5	42.4	46.1	38.1	32.9	39.7	57.3	63.2	58.2	56.1	46.5	46.8	△ 0.3		
深夜	患者数	490	598	453	509	608	538	449	470	736	630	471	533	6,485	6,558	△ 73		
	1日平均	16.3	19.3	15.1	16.4	19.6	17.9	14.5	15.7	23.7	20.3	16.8	17.2	17.8	18.0	△ 0.2		
	合計	2,350	3,286	2,033	2,469	2,819	2,481	1,997	2,505	4,204	4,465	3,330	3,537	35,476	35,538	△ 62		
前年度	2,744	3,006	2,099	2,585	2,536	2,517	2,075	2,372	4,566	5,231	2,928	2,879	35,538					
増減	△ 394	280	△ 66	△ 116	283	△ 36	△ 78	133	△ 362	△ 766	402	658	△ 62					

②医科患者転送状況

(単位：人)

区分	帰宅	転送	合計
患者数	34,690	786	35,476
構成比	97.8%	2.2%	100%
前年度	34,732	806	35,538
増減	△ 42	△ 20	△ 62

③転送機関別内訳

(単位：人)

区分	後方2次病院					後方1.5次病院					獨協医科大学病院	自治医科大学病院	その他	合計
	済生会	NHO栃	宇社保	宇記念	NHO宇	済生会	宇記念	柴病院	高橋病院	宇都宮東				
転送数	477	98	52	38	19	15	0	0	1	2	34	15	35	786
構成比	60.7%	12.5%	6.6%	4.8%	2.4%	1.9%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	4.3%	1.9%	4.5%	100%
前年度	465	81	51	41	25	16	0	2	5	4	46	17	53	806
増減	12	17	1	△ 3	△ 6	△ 1	0	△ 2	△ 4	△ 2	△ 12	△ 2	△ 18	△ 20

エ 歯科患者利用状況

歯科においては、主に繁忙期（年末年始）で患者数が増加し、受診者数は前年度比38人増の3,577人となった。

① 歯科月別受診者数

(単位：人)

区分	25年													合計	前年度比較	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	日数		比較増減	
	26年															
昼間	日数	5	7	5	5	7	7	5	6	8	8	5	6	74	74	0
	患者数	72	161	45	64	129	89	52	70	246	232	46	69	1,275	1,222	53
	1日平均	14.4	23.0	9.0	12.8	18.4	12.7	10.4	11.7	30.8	29.0	9.2	11.5	17.2	16.5	0.7
夜間	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365	0
	患者数	179	206	190	218	214	164	194	202	232	184	138	181	2,302	2,317	△15
	1日平均	6.0	6.6	6.3	7.0	6.9	5.5	6.3	6.7	7.5	5.9	4.9	5.8	6.3	6.3	△0.0
合計	251	367	235	282	343	253	246	272	478	416	184	250	3,577	3,539	38	
前年度	229	379	229	249	376	293	235	257	400	376	265	251	3,539			
増減	22	△12	6	33	△33	△40	11	15	78	40	△81	△1	38			

② 歯科患者転送状況 (単位：人)

区分	帰宅	転送	合計
患者数	3,545	32	3,577
構成比	99.1%	0.9%	100%
前年度	3,513	26	3,539
増減	32	6	38

③ 転送機関別内訳 (単位：人)

区分	NHO栃木	獨協	自治	その他	合計
転送数	8	20	4	0	32
構成比	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	100%
前年度	16	10	0	0	26
増減	△8	10	4	0	6

(2) 診療体制

地域住民のニーズに沿った一次救急における診療体制を充実するため、関係医療機関との連携を図るとともに必要な人員の確保に努めた。

ア 医師の安定確保を目指し、派遣協力医療機関との連携を強化した。

イ 後方病院並びに後方支援病院を始め、協力医療機関との連携を深め、円滑な患者転送に取り組んだ。

ウ 患者の受入実績及び繁忙状況等を踏まえた上でスタッフの充実を図った。特にゴールデンウィーク、旧盆、年末年始の繁忙期やインフルエンザ流行期における患者増に対し、医師、歯科医師、薬剤師等スタッフを増員し、円滑な診療を行うための診療体制の強化に努めた。

エ 医療サービス向上のため、年4回（4月、7月、12月、3月）看護師、歯科衛生士、事務員を対象に、繁忙期の診療体制の確認、緊急時の対応、医療機器の取扱等の研修を実施した。

(3) 普及・啓発活動

地域住民に対し救急医療の理解と健康に対する知識の普及を図るため、以下の取り組みを実施した。

ア 親子学級などにおける啓発活動

妊婦やその夫を対象として市保健センターで開催される「ママパパ学級」において、「救急医療の適正受診」についてのチラシの配付や、口頭による夜間休日救急診療所の適切な利用の仕方の案内を行った。

イ メディアを通じた啓発活動

ゴールデンウィーク、旧盆、年末年始における、夜間休日救急診療所の受診の仕方や季節の節目における健康に関するワンポイントアドバイスをラジオ放送で行った。

ウ 啓発資料の公共機関等での配布

子どもを持つ保護者を対象に、夜間休日救急診療所の受診の仕方や症状に応じた対処法のチラシを、4ヶ月児健診時（市保健師訪問指導）等に配付した。

エ 講演会の開催

平成 25 年 11 月 16 日（土）に「上手な救急診療所の受診の仕方（内科編）」と題した医師による医療講演会を実施し、夜間休日救急診療所の適正受診等の啓発活動を実施した。

2 健診センター部門

平成25年度は公益財団法人移行後2年目となり、地域住民の健康維持・増進のための各種健康診断や普及啓発活動などの公益を目的とした各種事業を積極的に推進した。

健診事業については、巡回方式の住民健診が好調に推移するなど、事業所健診、子ども健診を合わせ健診事業全体で102,531件を実施した。

健康支援事業では特定保健指導の他、健康教室、事後指導等を強化し、健診実施後のアフターフォローの充実に努めた。

また、精度管理の充実やリスクマネジメントを組織的に推進するなど安全管理を徹底し、市民が安心して受診できる健診環境の向上に努めた。

(1) 実施状況

健診受診者数

(単位:件)

健康診断種別	平成25年度		平成24年度		増減		
	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	増減	増減率(%)	
ア 事業所健診	定期健康診断	22,797	22.2	23,639	23.0	△ 842	△ 3.6
	生活習慣病予防健診	11,357	11.1	11,473	11.1	△ 116	△ 1.0
	人間ドック	1,551	1.5	1,523	1.5	28	1.8
	特殊健康診断	2,756	2.7	2,467	2.4	289	11.7
	結核検診	4,544	4.4	4,309	4.2	235	5.5
	その他の健診	2,254	2.2	2,183	2.1	71	3.3
	小計	45,259	44.1	45,594	44.3	△ 335	△ 0.7
イ 住民健診	節目健診	3,068	3.0	3,278	3.2	△ 210	△ 6.4
	地区健診	8,466	8.3	8,231	8.0	235	2.9
	地区巡回健診	5,796	5.7	5,157	5.0	639	12.4
	乳がん巡回健診	3,515	3.4	3,147	3.1	368	11.7
	子宮がん巡回健診	3,520	3.4	2,882	2.8	638	22.1
	特定健康診査単独	136	0.1	168	0.2	△ 32	△ 19.0
	結核検診	0	0.0	47	0.1	△ 47	△ 100.0
	個別マンモグラフィ検診	2,256	2.2	2,473	2.4	△ 217	△ 8.8
	婦人科検診	468	0.5	460	0.4	8	1.7
	小計	27,225	26.6	25,843	25.1	1,382	5.3
ウ 子ども健診	心臓検診	14,560	14.2	14,235	13.8	325	2.3
	結核検診	5,480	5.3	5,670	5.5	△ 190	△ 3.4
	その他の健診	10,007	9.8	11,627	11.3	△ 1,620	△ 13.9
	小計	30,047	29.3	31,532	30.6	△ 1,485	△ 4.7
合計	102,531	100.0	102,969	100.0	△ 438	△ 0.4	

エ 健康支援事業利用者数

(単位:件)

保健指導区分	平成25年度		平成24年度		増減	
	件数	構成比(%)	件数	構成比(%)	増減	増減率(%)
特定保健指導	239	8.6	224	23.5	15	6.7
その他の事後支援事業	2,548	91.4	730	76.5	1,818	249.0
合計	2,787	100.0	954	100.0	1,833	192.1

ア 事業所健診

事業所健診は、当健診センターの顧客の大部分を占める中小企業において受診者の増加が見込めない状況が続いており、特に小規模事業所を対象とする定期健康診断や生活習慣病予防健診の受診者数の減少が顕著になっている。

一方、事業団施設における人間ドックは顧客サービスの向上に努め、ほぼ前年度並みを確保した。また、有機溶剤、特定化学物質等を取り扱う事業所の特殊健診や市内医療機関で働く医療従事者を対象とする結核検診などは前年比増となるなど、事業所健診全体では、前年度比 335 件、0.7%減に止まり 45,259 件を実施した。

イ 住民健診

住民健診は、平成 24 年度から開始した乳がん・子宮がん巡回健診が市民に定着し、地区巡回健診と共に特定健診と各種がん検診が、身近な会場で同日のうちに受診できることが広く市民に認知されたことから、年間を通して受診者数が増加傾向で推移した。

一方、個別マンモグラフィ健診は、巡回方式による乳がん健診の普及に伴い減少傾向が続いており、受診者数は前年を下回る結果となった。

また、出勤する前に健診を受診できる早朝健診や、協会けんぽとのタイアップ健診等を平成 24 年度に引き続き実施し、市民の生活様式に対応するなど受診率の向上に努め、住民健診全体では前年度比 1,382 件、5.3%増の 27,225 件を実施した。

ウ 子ども健診

子ども健診は、少子化の影響により全体的に児童・生徒数が減少傾向にあるが、市内小学校 1 年生、4 年生及び中学校 1 年生の児童・生徒を対象とした学校心臓検診は前年を若干上回る結果となった。

また、結核検診は、対象学校の生徒、学生数の関係で実施件数が減少した。幼稚園、保育園児を対象とした尿検査や寄生虫卵検査等のその他の健診も、顧客が他の検査機関に移行したことなどにより減少し、子ども健診全体では、前年度比 1,485 件、4.7%減の 30,047 件を実施した。

エ 健康支援事業

特定保健指導は、出張型の保健指導のニーズが増加したことなどから、前年度比 15 件、6.7%増の 239 件を実施した。

また、生活習慣病予防健診受診者等の希望者を対象に実施している健康診断後の事後指導や、事業所等を対象に巡回型で実施する健康教室等も積極的に実施するなど、健康支援事業全体では、前年度比 1,833 件増の 2,787 件を実施した。

(2) 地域の健康づくりに関する情報収集・情報発信

平成 24 年度における宇都宮市国民健康保険の被保険者に対する特定健康診査の健診結果のうち、メタボリックシンドローム判定、特定保健指導レベル判定、検査項目別判定及び血液検査判定を基に、地域住民の健康維持に利用できる資料を作成し、その結果を宇都宮市に提供した。

(3) 普及・啓発活動

ア 健康教育及び健康指導

- ① 保健師が宇都宮市内の事業所や自治会、老人クラブ等に出向いて「健康づくり」、「動脈硬化」等の健康に関するテーマで講義や指導を行う出前講話を実施し、市民の健康意識の向上に努めた。

※7月3日：日神工業，10月5日：小平工業，2月13日：旭ヶ丘福寿会，3月13日：ニュー富士見が丘自治会，3月25日：塙田北部昭寿会

- ② 市内小中学校児童・生徒を対象に実施した平成25年度心臓検診の結果データを基に統計資料を作成，8月5日の養護教員研修会で報告し，市内小中学校の心臓疾患の現状を周知した。

イ 各種健診の受診率向上への取り組み

- ① 9月「がん征圧月間」，10月「乳がんピンクリボン運動月間」において横断幕やボード等を事業団建物や検診車両に掲示し，広く市民へ周知した。また，その他の月においては，「健診受診勧奨」のボードを検診車両に掲示し，健診の受診率アップに努めた。

- ② 平成25年10月6日，うつのみや食育フェアに参加し，保健師が「減塩」に関するテーマでパネルを作成展示し，来場者に説明を行い市民の健康意識の向上を図るとともに健診の受診率アップに努めた。

ウ 講演会の開催

平成26年2月15日，事業団講堂において健診センター所長及び自転車のプロ競技団体による講演会を行う予定であったが，天候の事情により中止とした。

エ 健康冊子の配布及びホームページでの掲載

保健師が血圧，糖尿病等の健康に関するテーマで冊子やリーフレットを作成し，市内及び近郊の事業所約730社に配布するとともに，一部を事業団ホームページに掲載して広く市民に健康情報を提供した。

※テーマ：「血圧を良い状態に保つ秘訣」，「糖尿病予防の秘訣」，「血液ドロドロ3タイプ」，「肝機能検査でわかること」，「健康診断，保健指導を受けましょう」，「メタボリックシンドロームを解消して健康血管づくり」，「ストレスをうまく解消して心も体もスッキリ」，「健康づくりのための睡眠指針」

オ メディアを通じた普及啓発活動

地域住民が健康について考える契機とするため，各種疾病や健康に関する予防月間等の際にその意義や予防について栃木放送と下野新聞を通じて広く市民に周知した。

※栃木放送

4月「健康診断受診勧奨」，5月「大腸がん検診」，6月「禁煙」，7月「前立腺がん検診」，8月「胃がん検診」，9月「がん征圧」，10月「乳がん検診」，

11月「糖尿病予防」、12月「飲酒」、1月「血圧」、2月「生活習慣病予防」、3月「子宮頸がん検診」

※下野新聞

6月「禁煙」、9月「がん征圧」、10月「乳がん検診」、11月「糖尿病予防」、1月「生活習慣病予防」、3月「子宮頸がん検診」

(4) 精度管理

ア 健診スタッフの技術の向上

全国労働衛生団体連合会や日本人間ドック学会等が主催する各種の学会、研修会に保健師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師等の職員を参加させ、資質技術の向上に努めた。

イ 内部精度管理の充実

日常的に使用する各種検査機器が適正に稼動し、正確なデータを得られるよう、日々の始業点検や保守点検を徹底すると共に再現性の検証等を定期的の実施した。

ウ 外部精度管理への参加

全国労働衛生団体連合会が主催するX線検査、血液検体検査、労働衛生検査及びマンモグラフィ精度管理中央委員会が主催するマンモグラフィ検査の外部精度管理事業に参加して各種検査の精度向上に努めた。

(5) 安全管理

ア リスクマネジメントの推進

健診業務におけるヒヤリハット事例の原因分析、防止対策等を組織的に検討し、その結果をスタッフへ周知し、事故防止への意識昂揚を図り、安全・安心な健診の実施に努めた。

イ 個人情報保護対策の強化

高度な個人情報を取り扱う健診機関として、健診受診票等の各種帳票類や検査データ等の個人情報文書を安全かつ適切に管理するため、保管スペースの充実を図るなど、個人情報の適正管理に努めた。

(6) 第三者認証の更新

全国労働衛生団体連合会が主催する「労働衛生サービス機能評価」の平成26年度の更新に向け現地調査等の審査を受けるなど、公益財団法人の健診機関として対外的な信頼性の確保を図った。

(7) 健診システム改修への準備

平成26年度の健診システム改修に向け、同システムと連動させる職域健診事務管理システムを構築するとともに、業務効率化のための関連ソフトの基本設計書を作成するなど、健診システム更新への準備作業を進めた。

3 准看護高等専修学校部門

准看護師として地域の保健医療を担う有能な人材を育成するため、教育教材の更新及び整備を行うとともに、講師及び実習指導者との連携を強化し指導体制を整えるなど、教育環境の充実を図った。

男子生徒の母子看護実習については、これまで校内の演習で行ってきたが、受け入れが可能な母子看護実習施設を新たに確保し、男子生徒に係る臨地実習体制の強化を図った。

新年度の入学生の確保においては、携帯サイトやホームページでの継続的なPRをするとともに、4回の学校見学会を実施し、卒業後の進路については、看護師学校への進学支援や、就職指導・就職支援にも積極的に取り組んだ。

(1) 教育実施状況

学年	生徒数 25年4月 (人)	教育科目（座学講義）				臨地実習			教育実施 時間合計 (時間)
		基礎 科目	専門基礎 科目	専門 科目	合計 (時間)	講師数 (人)	実習 時間 (時間)	実習 施設 (機関)	
		国語 外国語 音楽 その他	人体の仕組み と働き 食生活と栄養 薬物と看護 その他	基礎看護 成人看護 老年看護 母子看護 精神看護					
1年生	46	92	276	398	766	46	309	16	1,075
2年生	39	22	115	280	417		430		847
合計	85	114	391	678	1,183	46	739	16	1,922

(2) 生徒確保対策の強化

ア 在校生及び卒業生の県内出身高校の訪問（県立高5校）

イ 学校見学会の実施（4回、参加者総数 37名）

- ・ 平日2回（高校在学生在が主な対象）
- ・ 休日2回（社会人等が主な対象）

ウ 広報活動の充実

- ・ 平成26年度募集要項作成，医療機関・県内高等学校への送付
- ・ 入学案内のポスター，パンフレット作成，医療機関での掲示
- ・ 携帯アクセスサイト「ベスト進学ネット」への掲載（資料請求190件）
- ・ 宇都宮市広報紙掲載2回（11月号，2月号）
- ・ 事業団ホームページへの掲示
- ・ 進学情報誌「さんぼう」，「照栄広報」，「教育弘報研究所」出版へのアンケート協力により学校案内の掲載

- ・ 自動車教習所等の若者の集まる場所へのポスター掲示依頼
- エ 推薦入学制度の実施（高校生，社会人等）
 - ・ 推薦入試受験者 5名（高校生5名，社会人等0名） 合格者 5名

(3) 教育環境の充実

- ア 教育器材の整備
 - ・ 洗髪車・視聴覚教材（DVD）の更新
- イ 学校図書の実施
 - ・ 最新図書の購入（臨床実習に即した参考図書を増冊）
- ウ カウンセリングルームの開設（月2回）
 - ・ 県のカウンセラー派遣事業の利用

(4) 教育内容の充実

- ア 専任教員の資質の向上
 - ・ 栃木県看護教員養成講習会を1名が受講し，看護教員の資格を取得
 - ・ 栃木県看護系教員協議会研修会に3名が参加し研究活動の実施
 - ・ 日本看護学会学術集会に3名が参加（前橋市会場：1名，さいたま市会場：2名）
 - ・ 研修等終了後，校内における報告会の実施
- イ 講師及び実習指導者との円滑な連携の推進
 - ・ 実習指導者会議を開催し，実習指導者と実習内容について協議
 - ・ 実習引率，基礎実習施設への巡回及び反省会を行い，臨地実習先との連携を強化
 - ・ 講師，実習病院長，実習指導者会議を開催し，講義及び実習内容について協議

(5) 実践活動の充実

- ア 校外研修の実施
 - （解剖見学：獨協医科大学，高齢者とのふれあい体験：東京都巣鴨地藏通り商店街）
- イ 1，2年生の合同宿泊研修の実施（なす高原自然の家）
- ウ 特別講義の実施
 - （宇都宮西年金事務所担当者による「年金教育」）

(6) 地域医療機関への就業支援

- ア 平成25年度看護職員定着地域別就職ガイダンスの実施
- イ 生徒の特性と就職希望施設のミスマッチを予防するための相談及び指導

(7) 1年生の状況

	人数	備 考
生徒数	46	入学者数 43名, (受験者数 98名, 競争率 2.3倍) 復学者数 2名 留年者数 1名
進路変更等	5	退学者数 5名
進級者	41	

(8) 2年生の状況

	人数	備 考
卒業生	39	
うち准看護師試験合格者	39	合格率 100%
卒業生の進路		
看護学校進学者	18	進学者 46.2%
看護学校進学兼就職者	5	進学兼就職者 12.8%
医療機関就職者	16	就職者 41.0%
その他	0	
合 計	39	

(9) 平成 26 年度入学生の募集状況

試験科目…………… 国語, 一般教養, 作文, 適性検査, 面接

	試 験 日	受験者数	合格者数 (入学者数)	競争率
推 薦 入 試	平成 25 年 10 月 22 日 (一般教養・面接)	5	5 (5)	/
一 般 入 試 (第 1 回)	平成 25 年 11 月 26 日 (学科・面接)	41	29 (26)	
一 般 入 試 (第 2 回)	平成 26 年 2 月 25 日 (学科・面接)	18	10 (10)	
合 計		64	44 (41)	1.45

※ 平成 26 年度入学生 41 名

4 歯科衛生士専門学校部門

歯科衛生士として時代の要請に応える知識や技術を修得させ、口腔衛生の向上に資する有能な人材を養成するため、講師及び臨床実習指導教員との連携強化を図り指導の強化に努めるとともに、教育器材及び学校図書を整備を行うなど、教育環境の充実を図った。

また、3年制へ移行後4年目を迎え、新たな授業計画に基づく講義を継続すると共に、大学病院・介護施設での実習等を実施するなど、実習体制の充実を図った。

(1) 教育実施状況

学年	人数 25年4月	教育科目（座学講義）					
		基礎分野	専門基礎分野	専門分野	選択・必修分野	合計	講師数
		英語 生物 心理学 その他 (時間)	解剖学 組織発生学 生理学 生化学 歯牙解剖学 病理学 薬理学 その他 (時間)	歯科衛生士概論 歯科臨床概論 保存修復歯内療法 歯科補綴学 歯周保存療法 口腔外科学 その他 (時間)	情報処理 社会人マナー 耳鼻科 内科 小児科 (時間)		
1年生	50人	60	285	525	0	870	29
2年生	47人	45	15	45	45	150	10
3年生	47人	45	75	284	90	494	14
合計	144人	150	375	854	135	1,514	53

臨床実習		施設臨床実習 介護施設実習		教育 実施 時間 合計 (時間)
実習 時間 (時間)	実習 施設 (機関)	実習 時間 (時間)	実習 施設 (機関)	
—	—	—	—	870
720	35	—	—	870
270		36	5	800
990	35	36	5	2,540

(2) 学生確保対策の強化

ア オープンキャンパスの実施（4回）

- ・ 平日2回，休日2回で実施

イ 広報活動の充実

- ・ 宇都宮市広報紙掲載2回（10月，12月）
- ・ 進学情報誌掲載

- ・ インターネットによる広報
 - ・ 宇都宮市内の全中学校にポスターを送付
 - ・ 路線バスへのステッカー広告掲出
- ウ 進路相談会への参加
- ・ 栄美通信主催進学相談会参加
 - ・ 栃木県内学校進学相談会参加
- エ 推薦指定校訪問

(3) 教育環境の充実

- ア 学校図書の充実
- ・ 最新図書の購入
- イ 教育用機材の充実
- ・ デジタル印刷機の購入
 - ・ プロジェクター一式の購入

(4) 教育内容の充実

- ア 専任教員の資質の向上
- ・ 第4回日本歯科衛生教育学会への参加
- イ 講師及び指導教員との円滑な連携の推進
- ・ 講師指導教員打合会を開催し、指導教員と実習内容について協議

(5) 実践活動の充実

- ア フッ化物塗布事業、歯の健康教室への参加
- イ 特別講義の実施
- ・ 「ホワイトニング」「音波ブラシの使い方」「レーザー機器の取扱」等の実施

(6) 地域医療機関への就業支援

- ア 歯科衛生士の資格を習得させ、地域の医療機関等へ就業させることにより地域医療の担い手の提供体制の充実に務めた。
- イ 12月より就業支援を行い、希望者46名全員が就職した。

(7) 1年生（第36期生）の状況

	人数	備 考
学生数	50	受験者数 63 名（競争率 1.3 倍）
進路変更等	0	
進級者	50	

(8) 2年生（第35期生）の状況

	人数	備 考
学生数	47	復学者数 2 名
進路変更等	1	退学者数 1 名
進級者	46	

(9) 3年生(第34期生)の状況

	人数	備 考
卒業生	47	復学者数 1名
うち歯科衛生士国家試験合格者	47	合格率 100.0%
卒業生の進路		
医療機関就職者(歯科衛生士)	46	就職希望者 46名(就職率 100.0%)
医療機関就職者(歯科助手)	0	
その他	1	
合 計	47	

(10) 平成26年度入学生の募集状況

試験科目…………… 国語総合, 適性検査, 面接

試験区分	試 験 日	受験者数	合格者数 (入学者数)	競争率
A O 入 試	平成25年 9月29日	18	15 (15)	/
推 薦・特別入学	平成25年10月24日	21	21 (21)	
一 般 入 学	平成26年 1月16日	15	14 (9)	
一般入学(2次)	平成26年 2月16日	3	3 (3)	
一般入学(3次)	平成26年 3月23日	2	2 (2)	
合 計		59	55 (50)	1.07

※ 平成26年度入学生 50名

※ A O入試

論文や面接から志願者の意欲や個性などを測り, 学校が求める学生像から入学生を選抜する。